

世界遺産への道 第34回



大神神社のご神体・三輪山

大神神社は、奈良県桜井市、奈良盆地の南東側にある標高467メートルの三輪山をご神体とする神社です。

沖ノ島と類似する 信仰形態「大神神社」

おおみわ



狭井神社境内にある市杵島姫神社

を呈し、いかにも神が降臨しそうな威容を醸し出しています。

この神社は、三輪山をご神体としているため本殿がなく、拝殿と山が一体となつて構成されています。海か山の違いはあるものの、宗像大社(史跡名は宗像神社境内)とよく似た信仰形態を持っています。

三輪山のふもとには辺津磐座(へつのいわくら)、中腹には中津磐座、頂上には奥津磐座の祭祀(さいし)場があり、いづれも花崗岩(かこうがん)の巨岩群を祭っています。もと「津」というのは、港や船着場を意味する字であると考えれば、宗像大社の辺津宮、中津宮、沖津宮の表記が先に付けられたようにも考えられます。

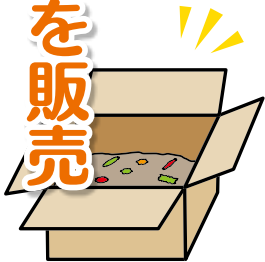
また、大神神社拝殿の裏側は禁足地(入ってはいけない場所)で、そこには山ノ神遺跡や禁足地の遺跡などの遺跡群があり、子持勾玉(こもちまがたま)などが出土しました。沖ノ島などの祭祀遺跡の規模に比べると小規模なもののですが、古代の祭祀遺跡があるという点は共通しています。

大神神社の境内摂社である狭井(さい)神社に許可をもらうと三輪山に登ることができですが、「山中での撮影禁止」「一木一葉たりとも、おのを入れてはいけない」「3時間以内に下山する」などの約束事があります。このことは、沖ノ島の禁忌をほうふつとさせるなど、類似する大神神社の信仰形態は、宗像大社の価値を語る上で重要な資料です。

最後に、狭井神社境内にある池の中島には、水神として市杵島(いちきしま)姫神社が鎮座しています。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎(36)1372

11月からは申請が不要に 補助金額を差し引いてダンボールコンポストを販売



市では、生ごみの減量を推進するため、生ごみ処理機器の購入費用の一部を補助しています。

11月からは、9地区のコミュニティ(表1)と市役所内福祉売店「ハートループ」、ゴミ問題を考える住民の連合会・宗像で、補助金相当額を差し引いた額でダンボールコンポストを販売します(表2)。

ダンボールコンポストを購入することで補助金が交付されたことになり、従来の補助金申請が不要になります。

\*その他の場所で購入したダンボールコンポストや、生ごみ処理機器は、従来どおり補助金申請が必要です

■問い合わせ先 生活環境課 ☎(36)1421

表1 コミュニティでの販売場所

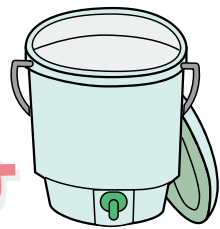
|          |         |          |
|----------|---------|----------|
| 吉武コミセン   | 赤間西コミセン | 自由ヶ丘コミセン |
| 南郷コミセン   | 東郷コミセン  | 日の里コミセン  |
| 田島コミュニティ | 池野コミセン  | 岬コミセン    |

\*各コミュニティでの「ダンボールコンポスト相談会」は13ページに掲載

表2 ダンボールコンポストの販売金額

| ダンボールコンポストの種類 | 定価①    | 補助金額②  | 販売金額(①-②) |
|---------------|--------|--------|-----------|
| セットI(初心者用)    | 2,100円 | 1,000円 | 1,100円    |
| セットII         | 900円   | 400円   | 500円      |

わたしたち コンポスト 使ってま〜す



市では、生ごみの減量を推進するため家庭用の生ごみ処理機器を購入した人に、購入費の一部を補助していますが、使い始めてみたものの「虫がわいた」「面倒くさい」という理由でやめてしまう人もいます。せっかく購入した生ごみ処理機器を家庭で眠らせるのは「もったいない!」。そこで、上手に使っている人の声を紹介していきます。今回は、須恵(河東地区)に在住の藤園軍一さんです。

■問い合わせ先 生活環境課 ☎(36)1421



17年前からEM容器を使っている藤園さん

宗像に来て12年になりますが、EM容器は約17年前から使っています。資源物は分別に出すので、燃やすごみは家族2人で月に3回くらいしか出さないですね。

EM容器を買ってからは、特に問題が起きたことはないですね。1回も買い換えていません。庭の小屋に置いて、2基を交互に使っています。EM容器は設置場所を選ばないので、使いやすい場所に置いています。

使う時に気をつけていることは、「きっちりふたを閉めること」「入れたごみの量に応じてEMぼかしを全体にふりかけること」「10日に1回ほど容器の下のコックから廃液を出すこと」ぐらいですね。ふたをするため、虫も発生しません。においも香ばしいし、嫌なにおいはしません。取り扱いが簡単なので、長続きするのでしょう。廃液は約1,000倍に薄めて畑などにまくと、肥料にもなりますよ。

カザンラック市民が鑑賞

宗像市民が描いた「バラの花」

宗像市がパートナーシップ協定を結んでいるブルガリア共和国・カザンラック市では、毎年6月に「バラまつり」が開かれています。宗像市では3月に、バラまつりで展示する絵画を募集し、市内保育所の園児や市民から約40点の作品を出展してもらいました。



園児が描いたバラの花

宗像市では、全ての作品をカザンラック市に送り、6月のバラまつりと9月の「友情の橋・バラの花絵画展」で展示してもらいました。カザンラック市の子どもたちは、自分たちとは違う色使いや描き方に興味を持って鑑賞していたそうです。

絵画展に訪れたカザンラック市のダミヤノフ市長は「宗像市民のみなさんの絵画が、われわれとの絆を確かなものにしてくれました。宗像市とのパートナーシップ協定締結の初事業としてとてもうれしい」と宗像市民からの出展を喜んでいました。



バラの作品を鑑賞するダミヤノフ市長(右から4人目)とカザンラックの市民

宗像市とカザンラック市の距離は遠いですが、小さい交流からお互いの心の距離を今後も縮めていきたいと思っています。

■問い合わせ先 秘書課 ☎(36)0890